

走行チェックシート

日付	2013年6月30日 (日)		時間	~	イベント	2013MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦		
天気	曇り		マシン	GSX-R1000 L3	ライダー	今野由寛		
コース	名称	筑波サーキット			気温	28	°C	
	コンディション	ドライ			気圧	1012	hpa	
	路面温度	41	(計測時間)		湿度	46	%	
エンジン	スパークプラグ	NGK R0373A-10		エンジンOIL	シェルアドバンス ウルトラ10W-40			
	ファイナルレシオ	15 x 46(3.066)						
トランスミッション	1st	A(36/17)	2.12	4th	B(31/21)	1.48		
	2nd	A(37/20)	1.85	5th	C(22/30)	1.36		
	3rd	B(36/22)	1.64	6th	C(25/32)	1.28		
フロント	パーツ名	SHOWA(760mm)		TEN	-5			
	スプリング	10.75	N/m	OIL	SR6 #5			
	自由長	-	mm	油面	195	mm		
	イニシャル	13	mm	残ストローク	mm			
	COMP	-5		突き出し	STDトップブリッジで0mm突き出し mm			
リア	パーツ名	SHOWA(321.5mm)		TEN	-12			
	スプリング	86.0	N/m	残ストローク	mm			
	自由長	mm		リンク	SPL			
	イニシャル	13	mm	リンクロッド	- mm			
	COMP(HI)	MIN		車高	STD+22mm ピボット-2mm スイング長602mm mm			
	COMP(LO)	-5						
タイヤ	フロント			リア				
	銘柄	ダンロップ		銘柄	ダンロップ			
	サイズ	125/80/R420		サイズ	210/60R420			
	エア圧	2.1		エア圧	1.5			
チェック	順位	7	位	ベストラップ	57.081			
	水温	°C		油温	°C			
	ガソリン	IN	-	ℓ	走行距離	km		
		OUT	-	ℓ	燃費	km/ℓ		

<コメント>

早いものでこの筑波ラウンドが終わると全日本選手権前半戦が終了です。

あと一月もすると鈴鹿の8耐です。

筑波はライダーもストレートが短いので休むところがなくて大変ですが、メカニックもガレージからパドックに行くまで機材やマシンを押していかなくてはなりません。

日本一体力が必要なサーキットです。毎年同じようなことを書いていますが大変なんです…。(笑)

しかしその分他のサーキットでは見れないくらい近くでマシンやライダーが見れるのも筑波サーキットの魅力だと思います。

今年は梅雨真っ只中の開催と言うこともあって、常にレインタイヤを用意しておかなくてはいけない状況でした。

そんな中始まった筑波ラウンドですが、いまひとつライダーの頑張りがタイムに結びつかない状況でした。

バネや高さをいろいろと振って変化させましたが、茂木同様筑波も非常に特殊なセットが必要なサーキットです。

茂木はフルブレーキングに対応しつつコーナーリングもバランスさせなければなりません、筑波はハードブレーキする場所がないためバネレートは高い必要がありません。

どちらかというと、コーナーリングの時間も短いのでピッチングを早くする傾向です。

(ピッチングとはブレーキング時にフロントフォークが沈んだ力をシーソーの要領でリヤに移すこと)

そのためにはバネレートはそこそこですが、高めの車体姿勢とイニシャル量で走行するのがコツかも知れません。

ちなみにST600やJSBクラスでは1コーナーはブレーキング時にリヤタイヤがアウト側にスライドしながら進入しています。

これはブレーキングとコーナーリングを同時に行っていないと筑波のような小さいコーナーは通常のブレーキング、コーナーリング、立ち上がりの動作では時間が掛かりすぎるためです。

しかしこの理論を実践するには転倒のリスクが伴いますのでお勧めはしません。要はタイムを上げる上で無駄な操作や無駄な時間を少なくすることで、今までと同じように走っても簡単にタイムアップすることが出来るはずです。

かなり横道にそれてしまいましたが、レースのほうに戻しましょう。

予選では自己ベストを更新して57秒08を記録。8番手グリッドから決勝レースを戦います。

翌日決勝日ですが、曇りでなかなか路面温度が上がリません。前日より10度くらい低い路面温度で決勝がスタート。

スタートが良くなく、9番手でしばらく走行。その後上位の脱落もありましたが、一台かわして結果7位でゴール。

順位的にはベストリザルトでしたが、目標には届かなかったレースとなってしまいました。

今回応援していただいた皆様ありがとうございました。

次回は鈴鹿8耐です。このレースはチームの力も試されるレースですので全力で頑張ります。

レーシングサプライ
畑中 健太郎